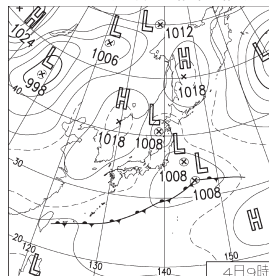


日々の天気図

— No. 112

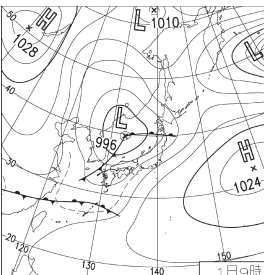
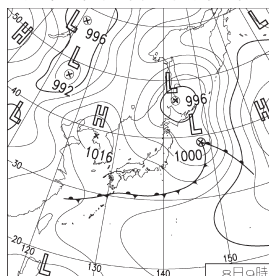
2011年 5月

- 7日、台風第1号が発生。11日には沖縄に接近。
 - 19日、全国的に晴天となり各地で気温上昇。東北で今年初の真夏日。
 - 27日～30日、梅雨前線と台風第2号および台風から変わった低気圧の影響で、広範囲で大雨。
- (気象庁予報部予報課)



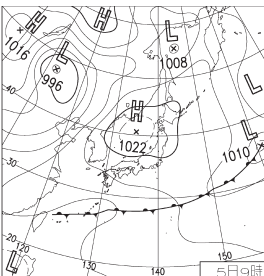
4日(水)本州付近は行楽日和

九州～東北部は、高気圧に覆われて乾燥した晴天が広がり、5月下旬並の陽気の所も。東北部や北海道は雨やみぞれ。沖縄は梅雨空続く。西日本・東海・北陸で黄砂続く。



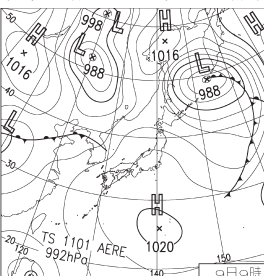
1日(日)西日本で黄砂

西～東日本は南西風が強くフェーンも加わり夏日の所も。南西諸島や北日本は前線の影響で雨が続き、鹿児島県沖永良部の和泊町で58.5 mm/1h。西日本各地で黄砂。



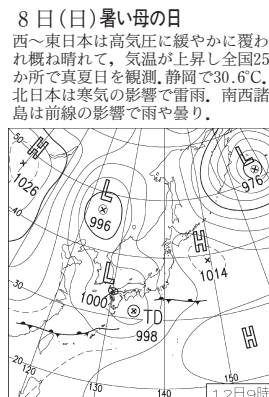
5日(木)高気圧北に偏る

東・北日本の太平洋側は北東風で曇り、気温4月上・中旬並。西～北日本の日本海側でも晴れたが、気温は上がらず。前線の影響で沖縄～九州南部は雨。黄砂は西日本の太平洋側。



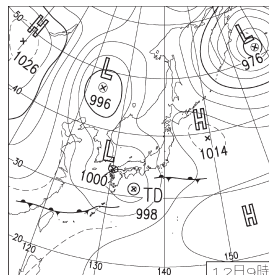
9日(月)連日の暑さ

高気圧に覆われ日中は晴れた所多く、大分県、山口県、島根県の6か所で5月の最高気温の記録更新。西日本中心に53か所で真夏日となる。サクラが旭川市で開花、帯広市で満開。



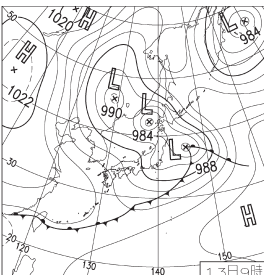
8日(日)暑い母の日

西～東日本は高気圧に緩やかに覆われ概ね晴れて、気温が上昇し全国25か所で真夏日を観測。静岡で30.6℃。北日本は寒気の影響で雷雨。南西諸島は前線の影響で雨や曇り。



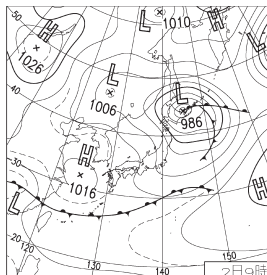
12日(木)台風、九州の南で消滅

低気圧が発達しながら西日本の日本海沿岸を東進、沖縄～東日本の広い範囲で雨。西日本で山がけ崩れの所も。台風第1号は午前3時に九州の南で熱帯低気圧に。



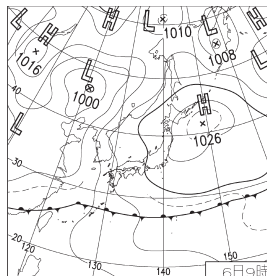
13日(金)広い範囲で黄砂

北海道と東北部では発達中の低気圧の影響で風が強く雨や曇り。南西諸島で曇りや雨。その他は太平洋側一部の曇りを除いて概ね晴れ。室蘭市でサクラ満開。沖縄～東北で黄砂。



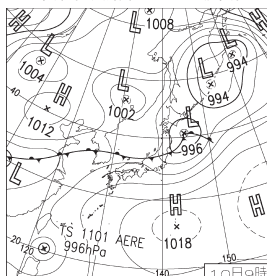
2日(月)黄砂、東日本にも

発達した低気圧が北海道にあり、北日本では暴風、気温も低くなる。西～東日本は移動性高気圧に次第に覆われ晴れ、黄砂が沖縄～東日本まで広がる。函館市ではサクラ開花。



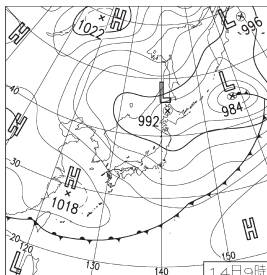
6日(金)肌寒い「立夏」

梅雨前線が北上し、沖縄、九州、四国で雨。九州や関東～東北の日中の気温は4月並までしか上がらず、やや肌寒い立夏となった。室蘭市でサクラ開花。函館市でサクラ満開。



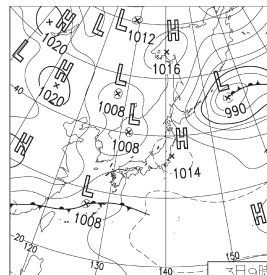
10日(火)大雨と高温

前線が本州南岸まで南下、台風第1号がバシー海峡北上。これらの影響で西日本など29か所で5月の日降水量の記録更新、前線南側の太平洋側5か所で5月の最高気温の記録更新。



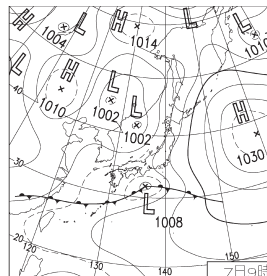
14日(土)北日本寒気流入

東北部～北海道は、低気圧の影響で曇りや雨。西日本は安定した晴れとなるが、関東以北は所々で雨や雷雨。北海道宗谷地方は最高気温が3月下旬並の寒さで、日中も1～4℃。



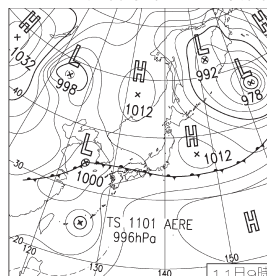
3日(火)西～東日本の黄砂続く

北日本は、一部を除いて晴れ。その他の地方は概ね曇りで、午後、太平洋側を中心に雨。関東では雷雨。千葉県横芝光で57.5 mm/1h。帯広市でエゾヤマザクラ開花。



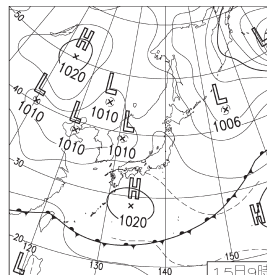
7日(土)台風第1号発生

低気圧へ吹き込む南風の影響で西～北日本の日本海側では気温が上がり最高気温は25℃を超え、富山28.9℃で7月中旬並。沖縄では熱帯夜となった所も。札幌市でサクラ開花。



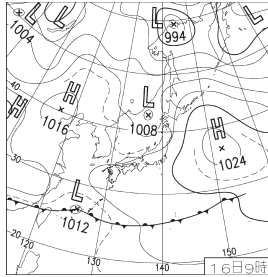
11日(水)台風第1号沖縄接近

西日本に停滞する前線の影響で西～東日本で大雨となり、島根県では日降水量の記録を更新した所も。台風第1号が沖縄に接近したのは、1951年の統計開始後2回目。

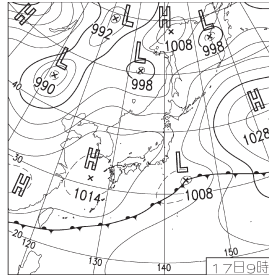


15日(日)本州は広く晴れ

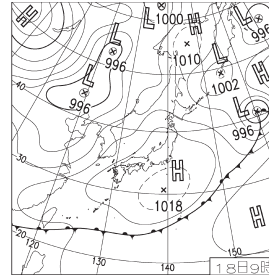
本州の南の高気圧に覆われよく晴れ、朝の冷え込み強まり北海道などでは氷点下となった所もあるが、本州付近は日中気温上昇。沖縄・奄美や北海道の一部で曇りや雨。



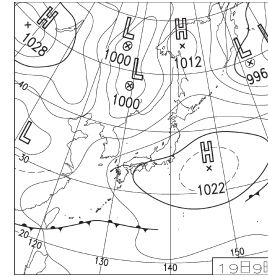
16日(月)沖縄で大雨
 沖縄付近の梅雨前線が活発化し那覇市樋川で62.5 mm/1h など、沖縄本島で非常に激しい雨。北海道西海上の低気圧に向かって南風が吹き、東北各地で夏日。網走市ではサクラ開花。



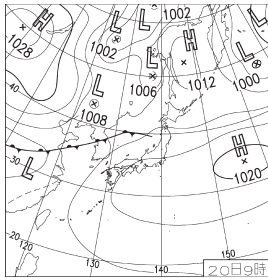
17日(火)近畿～関東甲信で雷雨
 上空に寒気を伴った気圧の谷が本州付近を通過、大気の状態が不安定となり、近畿～関東甲信の所々で雷雨。千葉県船橋で16 mm/1h を観測。



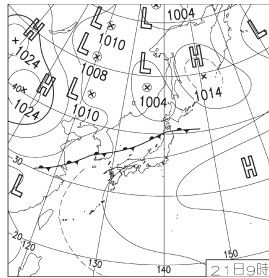
18日(水)新平年値の運用開始
 日本付近は南海上に中心を持つ高気圧に覆われ全国的に晴れ。10年ごとに更新される新平年値が本日から運用される。エゾヤマザクラが釧路市で開花、網走市で満開。



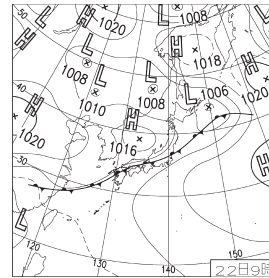
19日(木)東北で今年初の真夏日
 沖縄や北海道の一部で雨が降った他は、全国的に乾燥した晴天が広がる。最高気温は各地で6～7月並。福島では30.3℃。稚内市でエゾヤマザクラが開花し、今年の「桜前線」は終着。



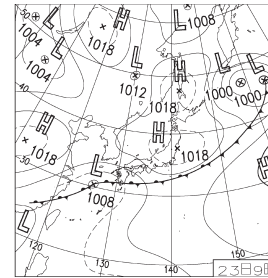
20日(金)福島で連日の真夏日
 日本の東海上にある高気圧に覆われ、九州北部～東北部では晴れて昨日同様に気温上昇。福島で最高気温30.7℃など各地で真夏日。関東では連日のスモッグ気象情報発表。



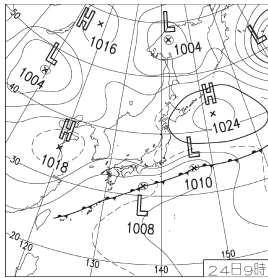
21日(土)関東以西で真夏日
 東日本は晴れたが、西日本は不安定で雨や雷。前線近傍の東北～北海道も雨。日中は気温が上昇し、関東以西で真夏日が広がり、東海～関東や東北太平洋側の最高気温は7月並。



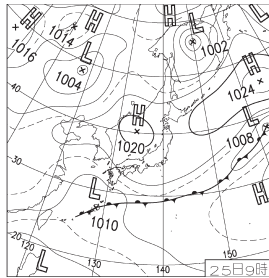
22日(日)気温急降下
 前線が本州を南下、各地でわか雨や雷雨。前線通過により各地で真夏並の気温から春先の気温に急降下。東京では最高気温29.6℃(13時)から16時には15.7℃に13.9℃低下。



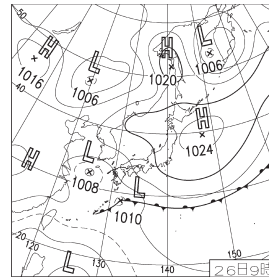
23日(月)九州南部梅雨入り発表
 北海道オホーツク海側で季節外れの雪。最高気温は北日本の一部を除いて全国的に低く3月下旬～4月並の肌寒い一日となる。九州南部は平年より約一週間早く梅雨入りを発表。



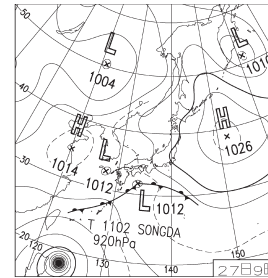
24日(火)西～東日本は天気回復
 九州～関東で広く雨をもたらした雲は東に抜け、日本海側から日射が戻る。関東も午後は晴れ気温上昇するも、東日本太平洋側の最高気温は4月並。沖縄・奄美は強い雨が続く。



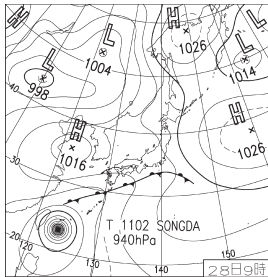
25日(水)稚内でサクラ満開
 梅雨前線の影響で沖縄～九州南部で雨。その他は、上空寒気の影響を受けた北海道も含め日中は概ね晴れ。稚内市でエゾヤマザクラが満開となり、今年の桜の観測通報終了。



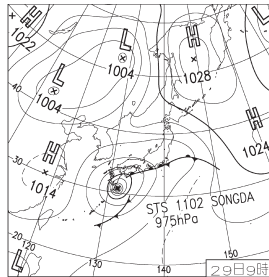
26日(木)西日本で梅雨入り発表
 九州は朝から雨で日中の気温は上がらず4月並。前線上の低気圧が北東へ進むにつれて雨は東へも広がり、夜には九州～関東で雨、四国・中国・近畿で平年より早い梅雨入りを発表。



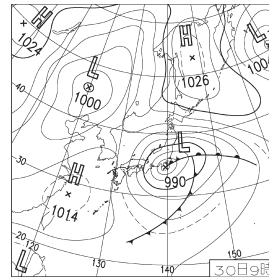
27日(金)東日本も梅雨入り
 梅雨前線上の低気圧が東進し、東日本もほぼ終日雨。東海・関東甲信は記録的な早さで梅雨入り発表(関東甲信は2位、東海は3位タイ)。台風第2号は先島諸島を目指して北上中。



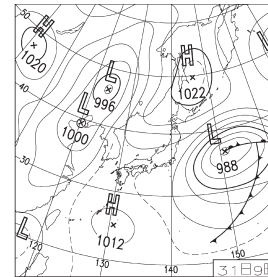
28日(土)先島諸島が暴風域に
 非常に強い台風第2号は宮古島と多良間島の間を北上。沖縄県久米島空港で最大風速41.8 m/s、那覇市樋川で最大瞬間風速55.3 m/s、鹿児島県十島村中之島で雨67.0 mm/1h。



29日(日)台風接近で大荒れ
 台風第2号は奄美大島と屋久島の間を北東進し、四国沖で温帯低気圧に。西日本中心に大雨や暴風。四国各県で日降水量200 mmを超える。鹿児島県和泊町で最大瞬間風速43.2 m/s。



30日(月)被災地でも大雨や暴風
 台風から変わった低気圧の影響で四国～東北の広い範囲で5月としては記録的な大雨。宮城県石巻で最大風速23.8 m/s、徳島県美波町日佐で最大瞬間風速35.7 m/s。

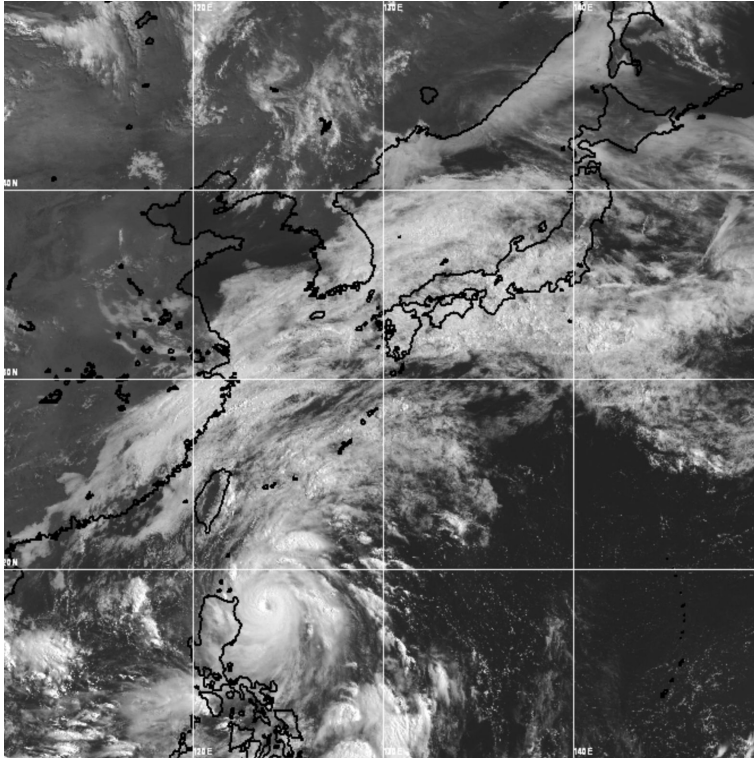


31日(火)天気回復
 各地に記録的な大雨をもたらした低気圧は東海上に進み、天気は回復。上層雲に覆われた東海や関東から天気相談所や気象台に日量やアークの目撃情報多数。



今月のひまわり画像—2011年5月

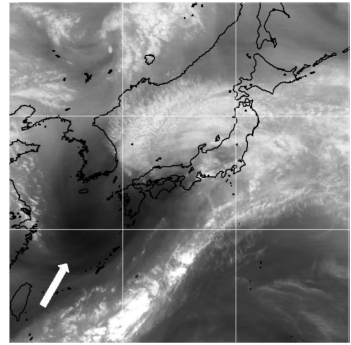
5月に日本に接近した台風第2号



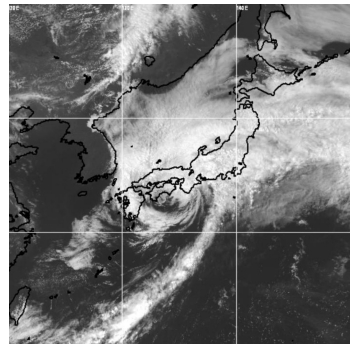
第1図 5月27日09時の可視画像。

第1図は2011年5月27日09時（日本時間）の可視画像である。フィリピンの東には猛烈に発達し、眼が明瞭な台風第2号が見られる。第2号は、6日前の21日21時にカロリン諸島付近で発生し、その後ゆっくり西寄りに進んだ。25日頃から急速に発達し始め、26日15時には中心気圧920 hPa、最大風速55 m/sの猛烈な台風となった（第1図の27日09時も同勢力）。5月に中心気圧が920 hPa以下にまで発達した台風は2008年の台風第2号（915 hPa）以来3年ぶりで、台風に関する統計が開始された1951年以降7例目（5月までに920 hPa以下に発達した台風としても9例目）の珍しい台風であった。

台風第2号の接近・通過に伴い、28日に那覇空港で最大風速40.9 m/s、那覇市樋川で最大瞬間風速55.3 m/sが観測され、沖縄では暴風により建物の窓ガラ



第2図 29日15時の水蒸気画像。白抜矢印については本文参照。



第3図 29日15時の可視画像。

スが割れるなどの被害が発生した。また、台風の接近と日本の南海上に停滞していた梅雨前線の影響等で、鹿児島県屋久島町小瀬田では観測史上1位となる24時間降水量457.5 mmが記録されるなど各地に大雨による被害ももたらされた。

台風第2号は、大陸から進んできた寒気を伴った深い上層トラフ（第2図の水蒸気画像に白抜矢印で示した暗域参照）の影響で、29日15時に四国沖で梅雨前線上の閉塞した温帯低気圧に変わった（第3図参照）。しかしその後も梅雨前線の活動は活発で、30日にかけて北陸、近畿、東北地方などでも大雨となり、福井県大飯で24時間降水量370.0 mmが観測されるなど、九州から北陸にかけての広範囲の観測所で24時間降水量の年間極値が更新された。

（気象庁予報部予報課 西村修司）